

(社) 日本原子力学会 標準委員会
第11回 原子燃料サイクル専門部会(FTC) 議事録

1. 日時 2002年9月10日 (火) 13:30~15:15

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 東 (部会長), 鈴木 (副部会長), 大橋, 駒田, 田中, 半沢, 松本 (忠), 三塚, 宮崎, 森 (一), 森山, 山根 (12名)

(代理出席委員) 小林 (宮川幹事代理), 大河内 (金木委員代理), 原 (倉田委員代理), 広瀬 (有富委員代理), 森 (雅) (吉海委員代理) (5名)

(欠席委員) 川上, 菊池, 小佐古, 松本 (史) (4名)

(発言希望者) 林, 武部 (2名)

(常時参加者) 芦澤 (1名)

(傍聴者) 野口 (1名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

FTC11-1 第10回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)

FTC11-2 人事について (分科会)

FTC11-3 人事について (専門部会)

FTC11-4 標準委員会の活動状況

FTC11-5 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

FTC11-6 収着分配係数の測定方法—浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順 (案) の意見受付公告 [公衆審査] の状況

FTC11-7 公衆審査におけるご意見と対応 (案)

FTC11-8 収着分配係数の測定方法—浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順 (案)

FTC11-9 収着分配係数の測定方法—浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順 (案) (修正前後の比較)

FTC11-10 臨界安全管理分科会の検討状況

FTC11-11 臨界安全管理の基本事項:2000 (案)

FTC11-12 「臨界安全管理の基本事項 (案)」への原子燃料サイクル専門部会委員コメント

FTC11-13 「臨界安全管理の基本事項 (案)」への標準委員会委員コメント

参考資料

FTC11-参考1 日本原子力学会標準制定スケジュール (案)

FTC11-参考2 原子燃料サイクル専門部会委員名簿

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 21名の委員中12名の委員と5名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数(14名以上)を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局よりFTC11-1により前回議事録の確認を行い承認された。

(3) 人事について

a. 分科会人事

事務局よりFTC11-2により以下の分科会主査及び分科会委員が選任された旨報告があり, 全会一致で承認した。

(a) リサイクル燃料貯蔵分科会主査: 有富正憲氏 (東京工業大学)

(b) 臨界安全管理分科会主査: 山根義宏氏 (名古屋大学)

(c) 放射性廃棄物管理分科会主査: 森山裕文氏 (京都大)

(d) 輸送容器分科会委員: 辻博之氏 (三井造船), 木倉宏茂氏 (東京工業大学)

(e) 放射性廃棄物管理分科会委員: 雨夜隆之氏 (日揮), 西高志氏 (日立製作所), 向井悟氏 (ニュークリア・デベロップメント)

(f) 臨界安全管理分科会委員: 野田宏氏 (中部電力)

b. 専門部会人事

事務局よりFTC11-3により加藤委員及び小林委員が退任され, 吉海委員が今回をもって退任したいとの連絡を受けているとの報告があった。

東 部会長より委員の推薦を求めることとなり, 宮崎委員より坪井裕氏 (原子力安全・保安院), 森雅人氏 (国土交通省) 及び村上秀明氏 (東京電力) を新たな委員とする提案があり, 全会一致で承認した。

更に、事務局より芦澤和浩氏（東京電力）が常時参加者への登録を希望されている旨の報告があり、全会一致で承認した。

（４）標準委員会等の活動状況について

事務局よりFTC11-4により標準委員会等の活動状況について報告があった。

（５）分科会報告

a. 臨界安全管理分科会

山根委員よりFTC11-5により第10回原子燃料サイクル専門部会及び第12回標準委員会への中間報告コメントを受け、分科会原案の作成及び新規案件の検討をおこなった旨の報告があった。

b. 放射性廃棄物管理分科会

森山委員よりFTC11-5により公衆審査意見への対応案の検討及び新規案件候補の検討を行った旨の報告があった。

c. 輸送容器分科会

広瀬委員代理よりFTC11-5により検討状況の報告があった。

d. リサイクル燃料貯蔵分科会

広瀬委員代理よりFTC11-5によりコンクリートキャスク方式の使用済燃料中間貯蔵施設の標準化検討状況及び使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準の改訂について報告があり、以下のような審議が行われた。

- ・ 原子力安全委員会指針と平行して検討することに問題はないか。
- ・ 指針と学会標準の考え方に大きな差はなく、検討に資するところもあり平行して検討したい。今回のような改訂もあり得るが、相互助け合えるのではないか。
- ・ 改訂のポイントは何か。
- ・ 長期貯蔵後の検査について、先行実績の技術的内容が定められており、これを反映したい。

（６）収着分配係数の測定方法－浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順（案）の公衆審査について

a. 公衆審査の状況

事務局より、FTC11-6により公衆審査の状況が報告された。

b. 公衆審査意見への対応（案）の審議

森山委員及び武部氏よりFTC11-7,8,9により公衆審査意見への対応（案）についての説明があり議論が行われ、対応案及び原案の修正が編集上の修正であることが承認された。主な意見を以下に示す。

- ・ 測定に無限の時間をおかないことを前提にしているのか。
- ・ 分配係数が、熱力学的な平衡定数ではないと考えている。
- ・ 「固層中」という言葉を使うことについて問題はないか。
- ・ 文献を調べた結果、「固層中」と記載しているのが一番多く、今回はこの表現に統一した。
- ・ FTC11-7だけをホームページに掲載してもわからないのではないか。
- ・ 他の学会でも公衆審査意見と対応を公表している。
- ・ 規約上、審議結果を公表することとなっている。また、全ての審議資料は事務局にて閲覧できるようにしている。但し、意見を頂いた方にはFTC11-7,8,9をお送りする予定である。

（７）分科会原案「臨界安全管理の基本事項（案）」の審議（本報告）

山根委員よりFTC11-10,11,12,13により検討経緯及び中間報告コメントを踏まえ分科会原案を決議したとの報告があった。更に、中間報告コメント及びその対応についての説明があり議論が行われた。

審議の結果、東 部会長より、次回第13回標準委員会において中間報告（2回目）を行うこと及び中間報告コメントを検討したうえ、原案に大きな変更がなければ専門部会決議投票に入ることが提案され、全会一致で承認された。また、中間報告コメントによる原案の修正は東 部会長に一任された。なお、原案に対するコメントは、9月20日までに事務局に送付することとなった。主な意見を以下に示す。

- ・ 第12回標準委員会において臨界事故について言及されているが、臨界事故は、この標準でいうバリアが喪失したために起きたと考えられるのか。
- ・ 工程を変更する際の検討が不十分であったと考えている。不正な改造によってバリアの信頼性が損なわれている。
- ・ 企業内部の安全委員会で、工程の変更は問題ないとの結論がでている。これは、社内用の議事録に記載されている。
- ・ 外部監査が必要である。ただし、本標準案では、監査について踏み込んだ記載をしていない。
- ・ 大事なのは、臨界事故、最近の不祥事にも見られるように、組織の管理である。ただし、組織・管理についての標準をまとめるには時間がかかる。
- ・ 組織・管理の問題は、臨界安全だけの問題ではない
- ・ 臨界安全管理以外の組織も含めて検討の必要がある。
- ・ 臨界事故以降、規制当局の検査が厳しくなっている。臨界事故のような不正な改造はできない状況にあるのではないか。
- ・ 本標準案は、民間として自主的に実施すべきことをまとめたものである。その意義は大きい。
- ・ 従来、設計段階のみで実施していた審査を、ライフサイクルを通じて、その後も必要であるとしている点の意義は大きい。

(8) 今後の予定

第12回原子燃料サイクル専門部会については、12月を目途に委員の都合を事務局にて確認し別途連絡することとなった。

以上